



時を守り、場を清め、礼を正す

—黙働による15分間の掃除の授業—

今、日本の掃除教育が海外から注目されていることをご存知でしょうか。学校掃除をその学校に通う児童・生徒がやっている、という国は世界的に見ても珍しく、外国

では学校といえども掃除はプロの業者の仕事。もちろん完璧な清潔さや手間を考えるならプロに任せたいほうがよいのですが、日本では掃除の持つ教育的意義(汚いものや不衛生な環境を適切に処理する技術を学ぶため、また、社会的協調性を獲得する教育的活動の一環として)に目を向け、子どもによる清掃を行ってきました。本校でも、チャレンジ目標を「時を守り、場を清め、礼を正す」と定め、「掃除は15分間の授業」と位置付け、重要な教育活動として取り組んできているところです。

「清掃」の目的・意義

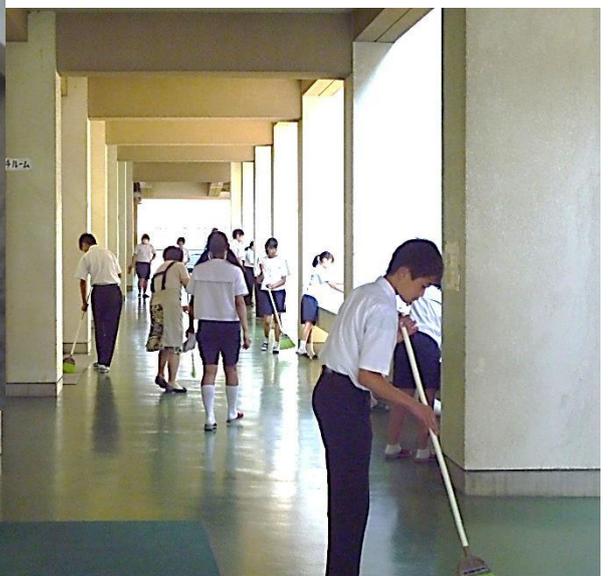
- 快適・・・美しい学習環境で気持ちよく過ごすため。
- 健康・・・衛生に気をつけることで元気に過ごすため。
- 耐久・・・物を大切に使うことで無駄な廃棄や処分を減らすため。

「清掃」を通して生徒に身につけさせたい力

- 協調性・・・「一人だと(掃除は)できないから、皆で役割分担をする」という発想
- 計画性・・・「どうすれば時間内に効率よく(清掃が)できるか」という段取り
- 発見力・・・「(教室の隅々までゴミがないか)細かいところまで気を配る」という視野の広さ



役割分担を徹底することで、協調性、計画性、発見力の育成を図っています。



今年度から、1年生から3年生までの縦割り班編成による黙働で汗を流す生徒たち

クリーンな小郡中学校をみんなで作ろう！！

—小郡中整美委員会が掃除で一流をめざす—



整美委員会では、「黙働」の徹底に特に力を入れており、小郡中全体で今年度めざしている「一流の学校」を、まずは掃除から実現していくという目標を掲げています。その総責任者である

委員長の兼重花さん（3-1）は、「4月ごろに比べると、隅々まできれいになり、服装もきちんとなっているなど、全校の雰囲気がとてもよくなってきている」と、大きな手ごたえを感じており、その要因としては、縦割り班の導入が大きかったと分析しています。また、縦割り班ではなくても、南校舎西階段を担当するグループ（2-6）のよ

うに「掃除の達人」とも言える生徒達が誕生してきているとも言います。今後は、このような「掃除の達人」が全校中に次々に出てくるのが大切であり、そうなるためにも整美委員会として効果的な手立てをこれからも積極的に発信していきたいと、校長室で力強く誓いを立ててくれました。その取組を支える山崎教諭は、「生徒が感謝の心をもって掃除に取り組むことで、しっかりとした社会性を身に付けることが大切」と述べ、15分間の授業としての掃除の持つ意味の重要性を、学校全体でしっかりと共有することが今後の課題であると分析しています。



—6月13日（月）～25日（土）

第1回オープンスクールに多くの来校者！—

今年度第1回目のオープンスクールを、6月13日（月）から25日（土）の11日間にわたって実施しましたところ、例年をはるかに上回るたくさんの皆様にご来校いただきました。生徒たちの学校での様子を生で見ていただいた率直なご意見をしっかりと寄せていただき、今後の教育活動の改善に大いに繋げていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。学校参観アンケートでは、以下のようなご意見を頂きました。一部をご紹介します。ご協力ありがとうございました。

○各項目4点満点で評価していただいた結果は、「学習環境」が3.8ともっとも高く、以下、「落ち着いた雰囲気」3.7、「めあて」3.6、「板書・説明」3.6、「振り返り」3.6、「話し合い考えを深める」3.5、「意欲的」3.4でした。

○お気付きとしては

- ・「静かに勉強していて安心した」「話を静かに聞く態度がよかった」「クラスの雰囲気がよかった」「発言できる生徒の陰に隠れる生徒に、先生が気付かれている」「日ごろのご努力がよく分かりました」「支援学級の先生から丁寧なお話をしていただけた」等のうれしいお気付きをたくさんいただきました。
- ・一方で、「私語が多く集中力がない」授業もあるというご指摘をいただきました。しっかりと取り組んでまいります。

